

書評

増補改訂版 植物医科学実験マニュアル
 —植物障害の基礎知識と臨床実践を学ぶ—
 植物医科学叢書 No.8
 第I編 植物医科学実験の基礎知識
 第II編 植物医科学実験の実際
 西尾 健/津田新哉 監修
 堀江博道/鍵和田 聡/中山喜一/橋本光司 編集
 B5判, 総ページ 544 頁 (うちカラー口絵 40 頁),
 定価 7,800 円 (税込)
 大誠社 (2023 年 4 月 5 日発売予定)
 (ISBN 978-4-86518-191-3)



法政大学植物医科学センターは、植物の生育障害（病気・虫害・生理障害等）および植物育成地・植栽地の自然環境保全・修復等に関する検査・診断を行うこと、などを目的に 2014 年 6 月に設立されました。そのため、これまでに多くの植物医科学関連図書（植物医科学叢書）を刊行するなど情報発信を積極的に行い、植物医科学教育研究の発展に寄与してきました。

本分野のさらなる発展と社会貢献のために、法政大学植物医科学センター創設 10 周年記念出版として、植物医科学叢書 No.8 となる増補改訂版「植物医科学実験マニュアル」が 2023 年 4 月 5 日に販売されることとなりました。

増補改訂版の原版は、2016 年に発刊された植物医科学叢書 No.2『植物医科学実験マニュアル～植物障害の基礎知識と臨床実践を学ぶ～』（B5 判, 総ページ 504 ページ）となっています。本書は、植物医科学専修（現・応用植物科学科）の学生実験をベースにしていますが、

植物医科学分野の単なる実験書としてではなく、現場観察の視点に徹し、従来・最新の要となる知見をおりませた技術書であることをコンセプトとしています。健康な植物の育成を目指す、学生から第一線の技術者・研究者、理科等の教員、愛好家等の必携の実験書として活用されることを期待していました。

本書は編者の思いである農業等の現場ですぐに役立つ内容であったことから、植物防疫の第一線で活躍されている人達の共感を呼び、単なる実験書ではなく実践書としての位置づけを確立しています。発刊から 6 年余たち最新の技術を盛り込み、視覚的に理解しやすい図も多数追加され、植物防疫に関する仕事に就いている関係者にとってはより活用できる一冊としてリニューアルされています。

改訂版の構成は、二編からなり、第 I 編では実際に圃場や緑地植栽レベルでの調査や実験に必要な基礎知識、第 II 編は基礎・応用、合わせて 43 課題の実験の進め方が掲載されています。ただし、実験室にとどまらず、現場での視点・臨場感をもてるように、さらには現場での課題を自ら考え、臨床へと進める構成となっており、「ノート」「コラム」等が充実しています（ミニ実験：8 課題、ノート：40 課題、コラム：5 課題、図：217 項目、表：20 項目）。

増補改訂版での主な変更点は大きく 3 点あり、まず、実験については、実際の実験に沿った内容に変更されました。さらに、時宜に沿った実践的な新規ノートとコラムの 9 課題、より視覚的な図 21 点がそれぞれ新規に追加されました。

また、昨年、一般社団法人日本植物防疫協会は都道府県の新農薬実用化試験を効率的に進めるための技術研修を法政大学や植物医科学センターの協力を得て法政大学で実施しました。この研修会でも初版の植物医科学実験マニュアルの一部を活用させていただきました。

これから植物防疫関係の業務に携わる人は、一読いただくことにより本書の価値を十分理解できることと思いますので、必携の書として手元におかれることをお勧めします。

（一般社団法人 日本植物防疫協会 富田恭範）